赤池　彰俊　　(S37年4月入学S41年3月卒業)

今から45年前の記憶は大分薄れましたが、懐かしく想い出した事をとり止めも無く書いてみました。

入学して間もなく、ダンス部（当時の名称：千葉大学舞踏研究会）の部室を覗くと、その日は、たまたまでしょうか埃だらけの部室には誰も居らず閑散としていました。しばし、佇んでいると一人の上級生がやってきて、入部の勧誘を受けました。私はヨット部とジャズクラブの両方からかなり熱心に誘われていたのですが、ダンス部に関心があった為、素直に入部手続を済ませました。これが後々、私の学生生活に大きな影響をもたらすとは、予期する筈もありません。何日か経つうちに新入部員が増えていきました。想い出す範囲では、本郷、松永、栗原、発智、岩上、前田、天木　等です。多分10人以上は入部したでしょう。他に、女性は3人か4人は入部した様に思います。新入部員同士、顔見知りになると、すぐに親しくなり、お互いの住まいを訪れたり、夜は千葉の繁華街の飲み屋に繰り出したりして、交際費のかかる学生生活が始まりました。栗原は当時では珍しい存在で、ルノーと言う車を乗り回していたし、麻雀という遊びも既に知っていて本郷、松永、私を引き込み‘これで面子が揃った’とか言っていました。4人揃わないと出来ないゲームなので、私も麻雀を覚えるきっかけになった訳です。次に岩上も希に見る遊び人で飲み屋には良くつき合わされたし、前橋の出身で冬はスキーを良く楽しんだとのことで、仲間うちでスキーを計画してくれました。私は静岡出身でスキーの経験は全く無く、スキー場にオーバーコートを着て行ったので皆、びっくりしていました。その時のメンバーは松永、前田、私の4人でした。1年生の夏の合宿はかなり新鮮な思い出として今でも蘇えります。合宿場所は福島県の猪苗代湖湖畔にある天鏡閣でした。1年生の男子が約１０名、女子が約5名、上級生及びOBが約１０名参加といったところだったと記憶しています。上級生が新入生をしごく為の強化練習といった感じがしました。極めて基本中の基本‘姿勢’と‘ホールド’と‘ウォーク’に重点が置かれました。どこから探してきたのか物差し、竹竿を矯正の道具にして姿勢、ホールドの良くない新入生はそれらを腕や体にくくり付けられて、汗を流しながらシャドウでステップさせられていました。自由時間は猪苗代湖で水泳を楽しみました。私は時計をしたまま泳いでいると、近くで泳いでいた先輩が防水時計をしている私を見て感心していました。私は平静を装っていましたが、実は腕からはずし忘れたに過ぎなかったのです。夜の宴会は新入生歓迎会を兼ねていたようです。上級生が気前良く新入生に酒をじゃんじゃん注いでくれる為、酒に弱い人もついつい断りきれず、飲んでしまった様です。遂に、一人が急性アルコール中毒をおこし、血を吐いてしまいました。参加した新入生の女性がたまたま看護学校の人達でしたから、彼は運良く手厚い看護を受けていました。秋の東都大学選手権大会があり出場メンバーを揃える為に1年生の私がワルツで出場させられました。部内には競技をめざすパートナー（女性）がいない為、OLとパートナーを組み出場した次第です。

他にも数々の楽しい思い出はあるものの、1年生の終わり頃には、いつの間にか、このクラブに頻繁に顔を出す部員はほんの一握りになっていました。その頃、クラブの総会が高田馬

場の喫茶店で行なわれたのも、不思議な事だとは思いましたが私はたまたま高田馬場が住まいでしたから、大変都合が良かったわけです。ところが、驚いたことに1年生の私に部長を引き受ける様にとの話がその総会で持ち上がり決定してしまったことでした。新組織になった後、本郷、松永、栗原らは相変わらず良くクラブに顔を出していましたので、私としては大変、心強く感じたものでした。ただ、このままでは、千葉大が学生競技会で活躍するどころかクラブの存続も怪しいと私は感じました。この際、学生競技会のありかたに問題（学生競技会と言いながら学生同士の競技会ではない）がある点を、競技連盟に意見書を提示し‘千葉大は出場を辞退する。’と表明しました。競技連盟との折衝は本郷と松永が担当を引き受け精力的に活動してくれました。その後の千葉大のダンス部は競技会参加を休眠状態にし、クラブ活動の充実化に力を注ぐ事にしました。私達の年代の現役生活残り3年間は部の立て直しに明け暮れ、卒業しました。卒業後も数年間は、夏の合宿（新潟県妙高高原の香風館）に良く顔を出したものです。

クラブ活動が充実化するにつれ、部内から競技会への復帰を希望する声が出始めたのは、極めて自然なことです。競技連盟が‘学生同士の学生競技会’を実施することになれば、その時こそ千葉大は新生ダンス部として復帰することは、当然のことと思っていました。その後、競技連盟に復帰を果たして現在に至るまで、おそらく色々な問題にぶつかり、紆余曲折があったことと思います。現在この様なすばらしいクラブに発展したことを心から嬉しく思っています。